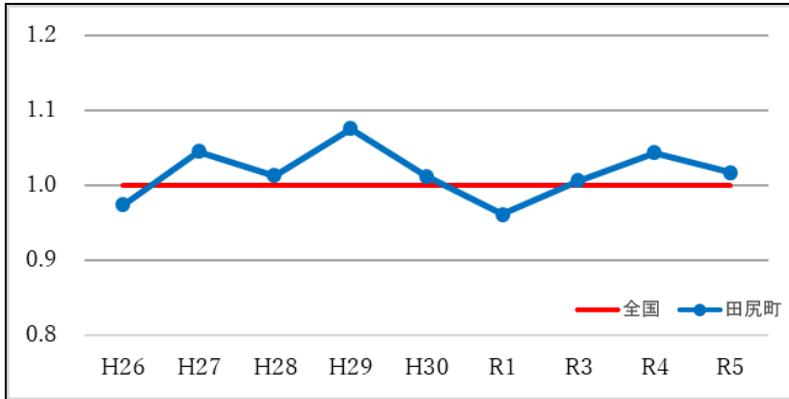


□ **結果概要** **全国平均を少し上回った**

文脈に即して漢字を正しく書くことや、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることはできている。一方で、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

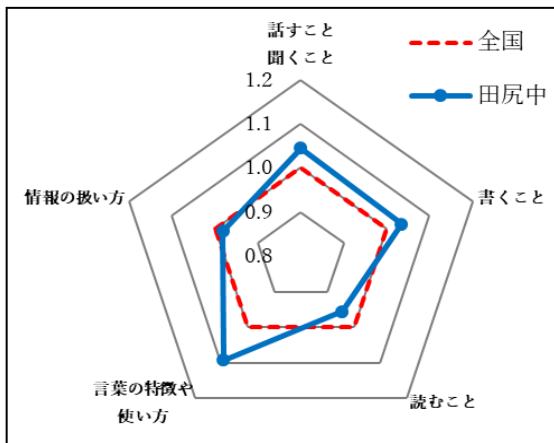
□ **正答率の状況** (全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率)

◇ 正答率対全国比 経年比較

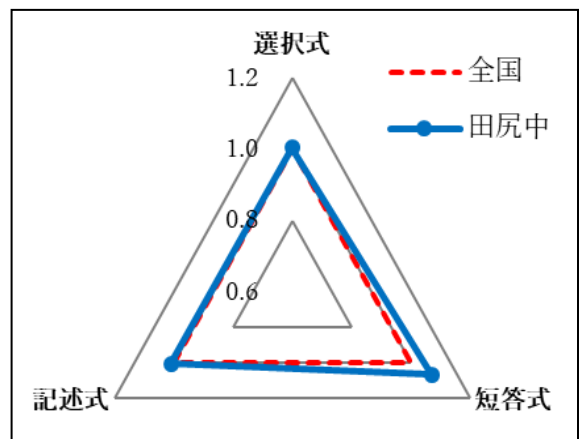


「言葉の特徴や使い方」については、全国平均を大きく上回ったが、「読むこと」「情報の使い方」については全国平均を下回った。昨年度課題であった「話すこと聞くこと」「書くこと」に改善が見られた。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ **具体的な生徒の状況等** (○：成果 ●：課題)

○**文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題について**

正答率は57.7%で、全国平均を14ポイント近く上回った。学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができている児童の割合が高い。書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、今後も実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。

○**歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題について**

正答率は94.9%であり、全国平均を12ポイント上回った。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直して読むことができている。文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができるよう、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加えるなど、指導する内容や生徒の実態に応じて教材を工夫することが大切である。

●**観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題について**

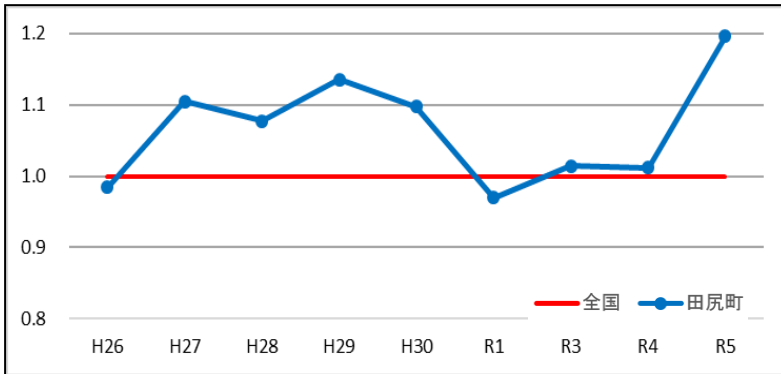
正答率は56.4%で、全国平均を7ポイント近く下回った。観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える力が必要な問題である。観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりすることで、物事に対する新たな視点をもてるようにすることが大切であり、「読書」に関する指導事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することが重要である。

□ **結果概要** 全国平均を大きく上回った

一つの項目を除いた，その他すべての項目が全国平均を超えており，生徒の理解度が一様に高水準であると言える。唯一平均を下回った項目は，複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することであり，課題に向けての指導の充実が求められる。

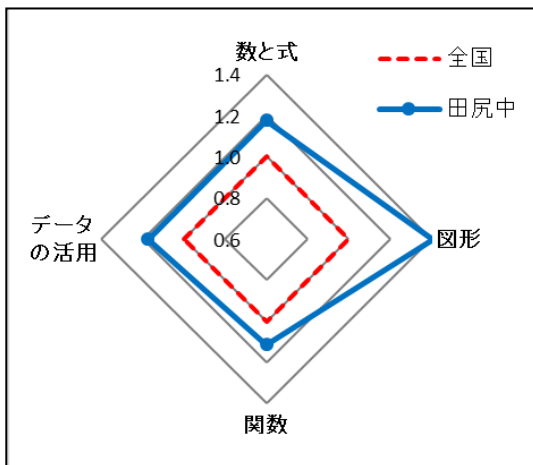
□ **正答率の状況** (全国平均正答率を 1.0 とした場合の田尻町の平均正答率)

◇ 正答率対全国比 経年比較

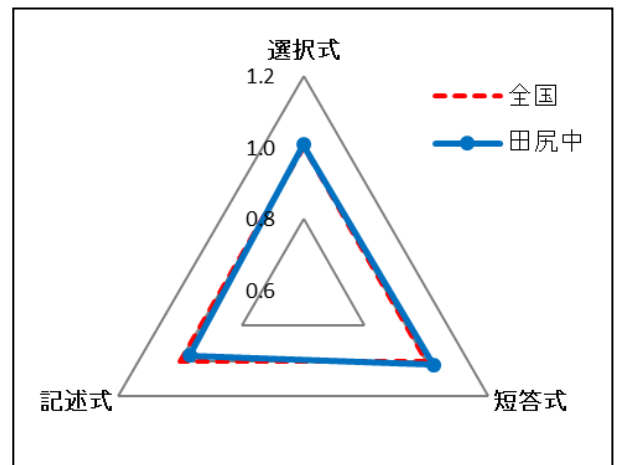


全ての領域で全国比を超えている。特に、「図形」については、全国平均を大きく上回る結果となった。指導方法を共有することで、今回の成果が単年度で終わることのないようにしていくことが重要である。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ **具体的な生徒の状況等** (○：成果 ●：課題)

○自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題について

正答率は 70.9%で，全国平均を約 25 ポイント上回った。多くの生徒が自然数の意味を理解できている。今後も自然数の意味を理解した上で，事象を自然数の範囲で捉えたり，数の範囲を拡張したりして考えることができるようにすることが大切である。

○空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題について

正答率は 48.1%となり，全国平均を 18 ポイント近く上回った。空間における直線や平面の位置関係を理解することができている。図形の性質を考察する場面では，空間における直線や平面の位置関係を捉えることが大切であり，空間における平面が1つに決まるための条件を理解することは，空間図形を考察する際に必要である。

●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題について

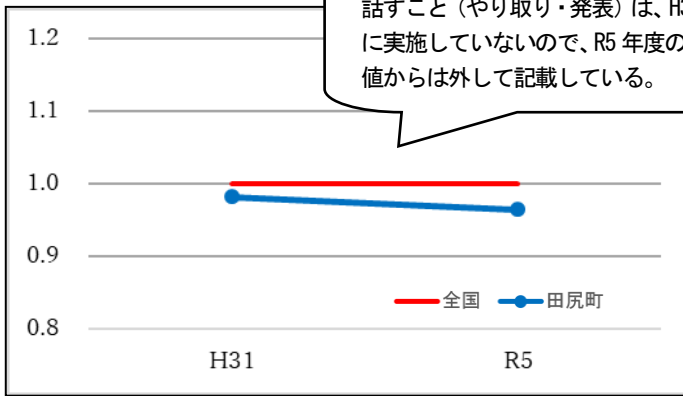
正答率は 29.1%であり，全国平均を 4 ポイント下回った。日常生活や社会の事象を考察する場面では，表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り，批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際，判断の理由を数学的に説明することが大切である。今後は，これまで以上に数学的な表現を用いて説明をする活動に重点を置きながら指導していく必要がある。

□ **結果概要** 全国平均を下回った

文と文との関係を正確に読み取ることや、日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けることはできている。一方で、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに大きな課題があり、指導の充実が求められる。

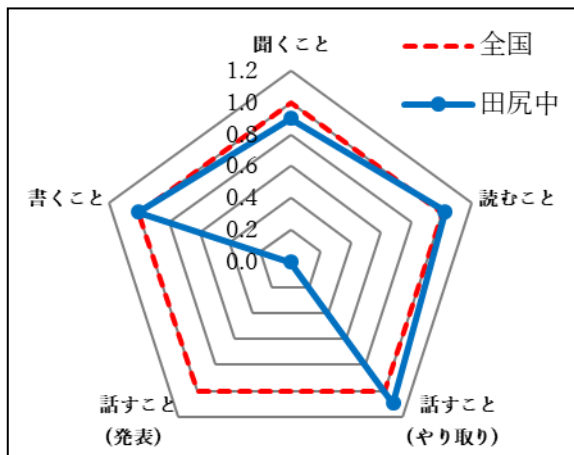
□ **正答率の状況** (全国平均正答率を 1.0 とした場合の田尻町の平均正答率)

◇ 正答率対全国比 経年比較

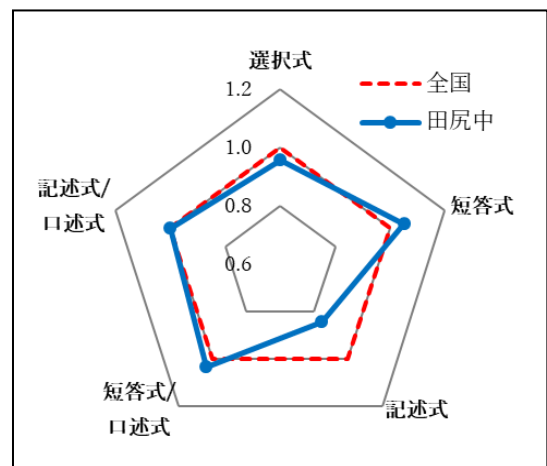


「話すこと (やり取り)」については、全国平均を少し上回る結果になった。一方で、その他の項目は全国平均と同じか、下回る結果となった。特に、「話すこと (発表)」において大きな課題があり、話すことを中心に据えた指導の工夫が重要になってくる。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ **具体的な生徒の状況等** (○ : 成果 ● : 課題)

○ **日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる問題について**

正答率は 39.2%で、全国平均を 5 ポイント近く上回った。物語や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることができる力が必要な問題である。今後も、簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する学習を継続的に続けていくことが大切である。

● **情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題について**

正答率は 40.5%で、全国平均を 24 ポイント近く下回った。情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解する必要がある。指導にあたっては、基礎的な知識の定着はもちろんのこと、英語の「話すこと」を中心に据えた学習ができるように、場面設定を工夫することが大切である。

● **社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかをみる問題について**

正答率全国平均を 4.2%と難易度の高い問題だったが、本町の正答率は0%であった。社会的な話題に関して聞いて分かった情報を活用し、聞き手に話して伝えることに課題がある。既習の表現などを駆使しながら、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝える経験が重要である。指導にあたっては、英語の「話すこと」を中心に据えた学習ができるように、場面設定を工夫することが大切である。